

全国学力・学習状況調査の結果より

大仙市教育委員会

I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力の維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年、中学校3年
- 3 実施教科 国語、算数・数学
- 4 調査内容 ① 学力調査 A:「知識」など基礎学力を問う問題
B:思考力など「活用する力」を問う問題
② 学習状況調査 生活や関心・意欲などに関する調査
- 5 実施期日 平成20年4月22日(火)
- 6 参加状況 全国の国公私立の小・中学校の32,504校(全体の98.6%)

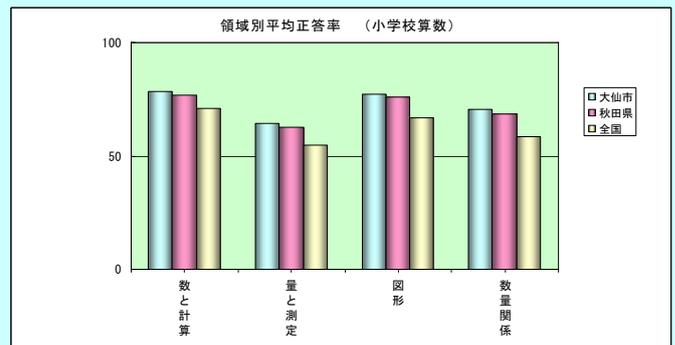
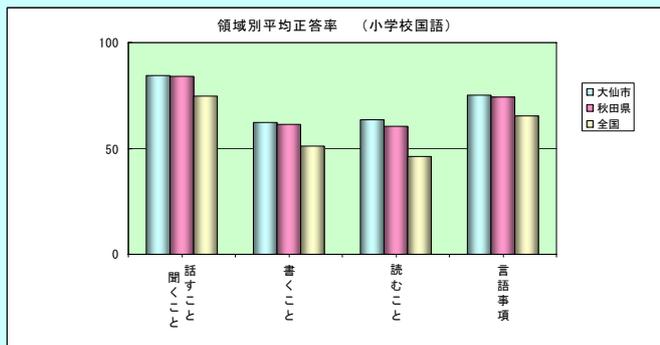
II 結果の概要

- 1 概況 平成20年度調査の各教科等の全国平均正答率は、19年度と比べ8~16%低下した。文部科学省は、この理由として、「依然として“知識”よりも“活用”に課題があることに加え、出題の難易度が上がったこと」をあげており、本県、本市においても同様の傾向が見られた。平成20年度の本市の結果を全国や県と比べてみると、本市の学力は、引き続き概ね良好な状況が維持されているものと考えられた。

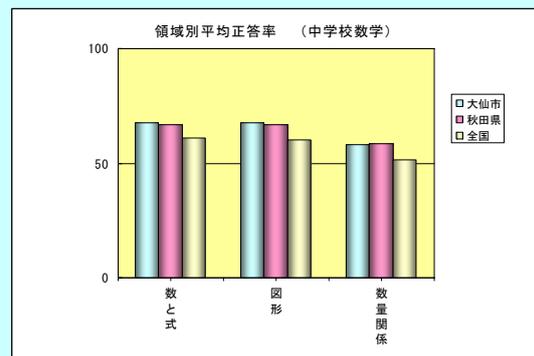
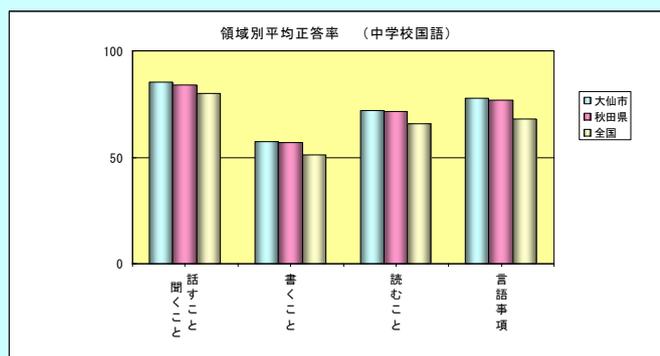
(1) 結果

【資料1】領域別平均正答率の結果

小学校



中学校

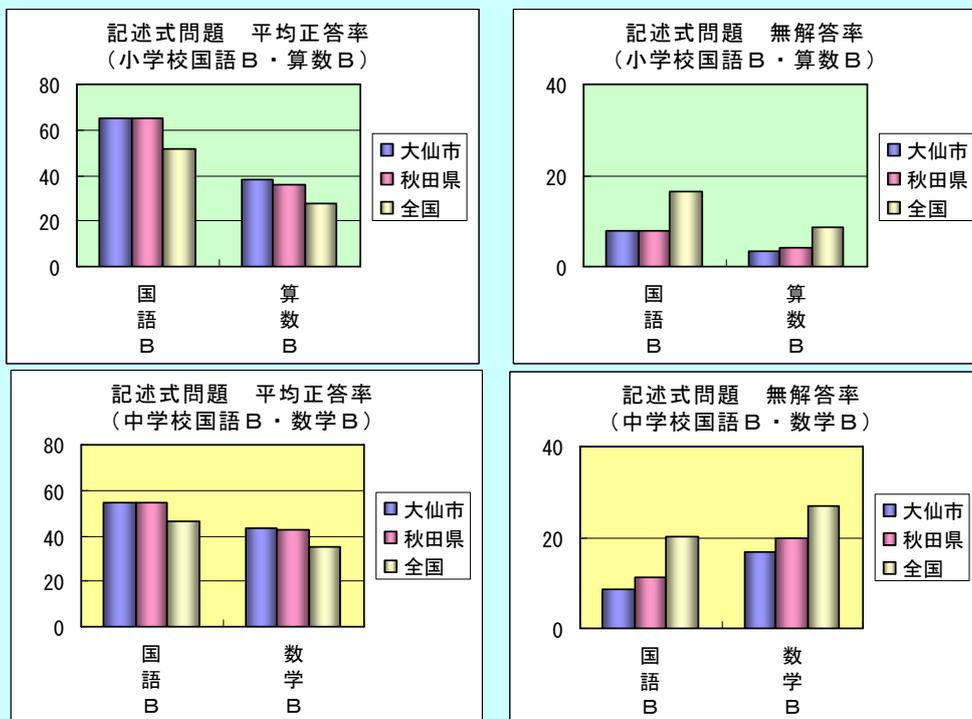


Ⅲ 分析結果の考察

1 傾向 ◎ 学力の下支えとなる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は問題に粘り強く取り組んでいる。

- ・ 無解答率が低い。
- ・ 記述式の問題でも正答率が高い。
- ・ 学力調査結果がよくなかった児童生徒の割合が相対的に少ない。

【資料2】記述式問題 平均正答率・無解答率比較



* 大仙市は、小・中ともに全国平均正答率を上回り、無解答率は下回っている

2 要因 ① 児童生徒が学習に集中し、じっくり考えることができる環境が構築されている。

- ・ 児童生徒は、基本的な生活習慣を身に付け、意欲的に学習に取り組んでいる。
- ・ 難しい問題にも時間いっぱい取り組んでいる児童生徒が多い。

② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- ・ 基礎テストや、放課後・長期休業等を活用した補充学習を実施している。
- ・ ティームティーチングや少人数指導などの効果が表れている。

③ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- ・ 継続的な読書活動を推進している。
- ・ 地域ボランティアの活用や小学校における教科担任制の実施、幼・小、小・中、中・高、小・高など異校種間の連携により学習活動の充実を図っている。

④ 県や市が各学校の取組を支援する施策を推進していること。

- ・ 少人数学習推進事業、算数・数学学力向上推進班による単元評価テストなど県の施策を積極的に活用している。
- ・ 市独自の施策を推進している。

○「こころふれあうさわやか大仙」事業(あいさつ、生活習慣の確立)

○体験学習推進事業(職場体験、芸術鑑賞、異校種間連携、国際交流など)

○学力向上推進委員会による分析・回復指導資料作成、各種研修会の開催

○学校訪問の実施(教育委員等による学校訪問、指導主事訪問 など)

3 現況

(1) 全国・県の平均正答率との比較

		全設問数	全国・県の平均正答率との比較
小学校	国語A	18	すべての設問で全国より上回る。14個の設問で県を上回る。
	国語B	12	すべての設問で全国より上回る。9個の設問で県を上回る。
	算数A	19	すべての設問で全国より上回る。14個の設問で県を上回る。
	算数B	13	すべての設問で全国より上回る。12個の設問で県を上回る。
中学校	国語A	34	すべての設問で全国より上回る。24個の設問で県を上回る。
	国語B	10	すべての設問で全国より上回る。8個の設問で県を上回る。
	数学A	36	34個の設問で全国を上回る。18個の設問で県を上回る。
	数学B	15	14個の設問で全国を上回る。11個の設問で県を上回る。

(2) 教科ごとの状況

小学校 国語A : 「知識」など基礎学力を問う問題

高いレベルで 良好である	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きなど基礎的・基本的な事項がよく身に付いている。 文章の内容に合わせて、小見出しを書く問題はよくできている。
良好である。	<ul style="list-style-type: none"> スピーチの組み立ての工夫点についてとらえる問題は概ねできている。 発表しやすく工夫した点についてとらえる問題は概ねできている。
やや良好で 課題もある。	<ul style="list-style-type: none"> 文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲する問題にやや課題がある。 結果から考えたことを明確に書く問題にやや課題がある。

小学校 国語B : 思考力など「活用する力」を問う問題

高いレベルで 良好である	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じた適切な言葉遣いで聞く問題はよくできている。 話し手の意図を考えた反応をし、内容を聞く問題はよくできている。
良好である。	<ul style="list-style-type: none"> 物語文における登場人物の特徴をとらえる問題は概ねできている。 目的に応じて必要な情報を取り出し、整理する問題は概ねできている。
やや良好で 課題もある。	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて必要な情報を取り出し、整理することはできるものの、分かったことや自分の考えを明確に表す問題にやや課題がある。

小学校 算数A : 「知識」など基礎学力を問う問題

高いレベルで 良好である	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算は全ての問題でよくできている。 円グラフから割合を読み取ることがよくできている。
良好である。	<ul style="list-style-type: none"> 10や1の位の数と小数を合計する問題について概ね理解している。 平行四辺形の面積の求め方を理解し、実際に面積を求める問題は概ねできている。
やや良好で 課題もある。	<ul style="list-style-type: none"> 面積を分かりやすい図形の大きさに置き換えて求める問題にやや課題がある。

小学校 算数B : 思考力など「活用する力」を問う問題

高いレベルで 良好である。	・ドアの端の動きが、円周の一部であることを見いだす問題はよくできている。 ・億、兆などの単位を考慮して、グラフを読む問題はよくできている。
良好である。	・掃除当番表から当番順の規則性を読み取る問題は概ねできている。 ・学年ごとの身長伸びを棒グラフに表す問題は概ねできている。
やや良好で 課題もある。	・折れ線グラフと棒グラフの対応を判断し、両者の違いを数学的に表す問題に やや課題がある。

中学校 国語A : 「知識」など基礎学力を問う問題

高いレベルで 良好である	・言語に関する基礎的な知識・技能を身に付け、用いることがよくできている。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題はよくできている。
良好である。	・インタビューの展開を考え、適切な質問をする問題は概ねできている。 ・話し合いの方向をとらえ、適切な発言をする問題は概ねできている。
やや良好で 課題もある。	・論理の展開に着目し、評価・批評する問題にやや課題がある。 ・伝票を読みやすい配列・配置に注意して書く問題にやや課題がある。

中学校 国語B : 思考力など「活用する力」を問う問題

高いレベルで 良好である	・レポートの内容について適切な説明を選択する問題はよくできている。 ・文学作品から、登場人物の人間関係を整理する問題はよくできている。
良好である。	・文学作品から、登場人物の心情をとらえる問題は概ねできている。 ・四字熟語を手がかりに見方、考え方を説明する問題が概ねできている。
課題である。	・表現に注意しながら文章を読み、読み取った内容を条件に合った表現に直して 書く問題に課題がある。

中学校 数学A : 「知識」など基礎学力を問う問題

高いレベルで 良好である	・分数の減法、正負の数の計算問題はよくできている。 ・三角形の内角の和が 180° となることを証明する問題はよくできている。
良好である。	・反比例のグラフ上の点の座標を求める問題は概ねできている。 ・一元一次方程式(変数 x のみの方程式)を解く問題は概ねできている。
やや良好で 課題もある。	・文字式の意味を具体的な事象と関連付ける問題にやや課題がある。 ・ x の変域に対応する y の変域を、グラフ上に表す問題にやや課題がある。

中学校 数学B : 思考力など「活用する力」を問う問題

良好である。	・十と一の位を入れかえた数の和を式で表す問題は概ねできている。 ・与えられた式を使って歴史上の人物の身長を求める問題は概ねできている。
課題である。	・事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明する 問題に課題がある。 ・与えられた表やグラフを用いて、未知の値を推定する方法を説明する問題に 課題がある。

4 課題

- ① 「知識・理解」に関する問題についてはおおむね良好である。今後は、さらに思考力の定着を図る必要がある。そのためには日ごろから児童生徒のつまずきを明らかにし、それに即応した指導を積み重ねていく必要がある。
- ② 「活用する力」は全国の結果より良好であるが、「知識・理解」に関する問題に比べ弱い。「活用する力」は「生きる力」の育成に最も欠かせない力であることから、学習指導の改善の視点を明確にした組織的な取り組みが求められる。

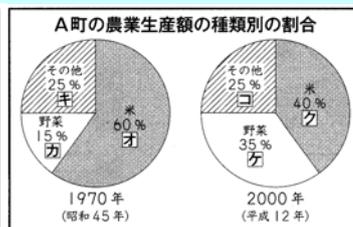
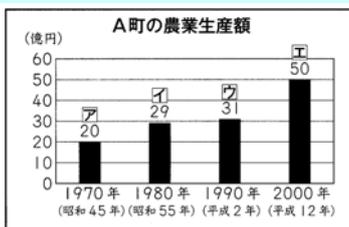
【資料3】全国的に正解の割合が低かった問題（左は小学校算数B、右は小学校国語A）

【小学校算数B-2(3)】

全国平均正答率 17.3% 県平均正答率 25.5%

【小学校国語A-3】

全国平均正答率 33.7% 県平均正答率 39.1%



(3) 次は、米について考えます。

A町の1970年と2000年の米の生産額について、ひろしさんは、次のように言いました。

米の割合が、60%から40%に減っているから、米の生産額は、減っています。



ひろし

ひろしさんの言っていることは、正しいですか。「正しい」か「正しくない」かのどちらかを○で囲みましょう。また、そのわけを、言葉や式を使って書きましょう。

〈正答 正しくない〉

〈理由 (解答例)〉

米の生産額は、農業生産額×米の生産額の割合で求められるから、米の生産額を比べるためには、米の生産額の割合だけでなく、農業生産額も考えなければいけない。また、米の生産額を求めると、12億円から20億円に増えている。だから、ひろしさんの言っていることは正しくない。〉

〈誤答の要因〉

- ◆比較する量は、それぞれの全体量に対する割合であることが理解できていない。

〈改善に向けて〉

- 割合の意味理解の習熟を図りたい。
- グラフから必要な情報を選択する力や基準となる量と割合から比較する量を求める力を養いたい。

3

町田さんは、六年生の一年間の目標を作文にまとめるために下書きをしました。読み返してみると、書き直したほうがよいと思ったところが見つかりました。書き直したほうがよいものと思った理由を、どのように書き直したほうがよいかを説明したものと、ふさわしいものをあとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

※文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。

「書き直したほうがよいと思ったところ」

① わたしは、六年生として学校のためになるような仕事や活動に積極的に取り組もうと思った。② しかし、具体的にどんなことをしたらよいのかなやんできました。③ そこで、先生に相談すると、「あなたの好きなことが、学校のためにつながるとよいですね。」と、話してくださったので、花が好きなところを生かせばよいと気づいたので、花いっぱいのできる学校にしようと思った。

- 1 ②の文には、「だれが」という主語がぬけているから、主語となる「先生」を書き足したほうがよい。
- 2 ③の文は、「ので」が続いて長くなり、分かりにくいから、一文を分けて書いたほうがよい。
- 3 ③の文の「」の部分は、先生が話した言葉だから、「話してくださった」まで「」に入れたほうがよい。
- 4 ①から③までの文は、述語が「くした」になっているから、「です」や「ます」も使ったほうがよい。

〈正答 2〉

〈誤答傾向と要因〉

- ◆【4】を選択する誤答傾向が強く「分かりやすく適切に表現する」「文体を統一する」といった推敲の目的意識が不十分である。

〈改善に向けて〉

- 語句の役割や語句の相互の関係に気を付けながら、文の構成をとらえて推敲する力を育てたい。
- 日ごろから、語感や言葉遣いに対する感覚を養いたい。

IV 生活習慣・学習習慣の結果分析

【「あてはまる」+「どちらかといえば、あてはまる」の割合】

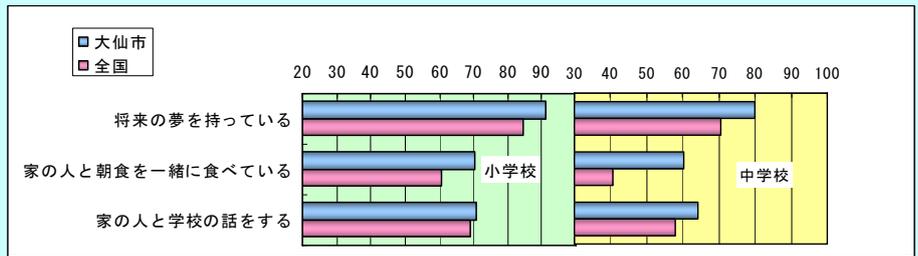
1 基本的な生活習慣

朝食をきちんと摂り、学習用具を前日に準備するなどの基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒が比較的多い。

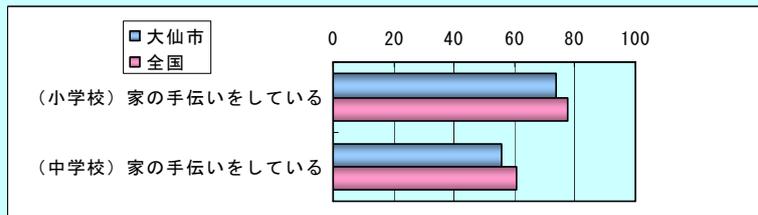
また、家族と一緒に食事を摂り、温かい家庭環境のもと将来の夢をもっている児童生徒も多い。

しかし、家の手伝いをしている割合は、小・中学校ともに全国と比べて低い。この傾向は昨年度と変化がない。

【資料4】家庭での生活（小・中学校）



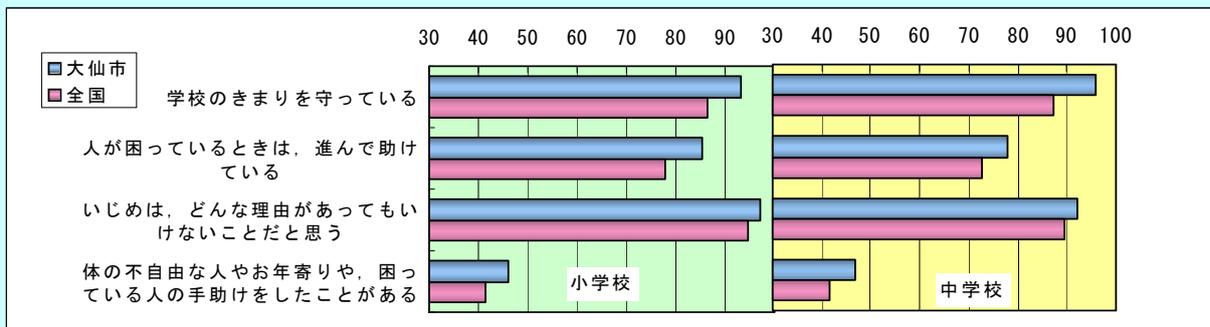
【資料5】家庭の手伝い（小・中学校）



2 規範意識

いじめや学校のきまりに関する規範意識が全国に比べて高い。また、思いやりの心も強く、困っている人を手助けしたこともあるなど実践する力も備えている。各学校の生徒指導や児童(生徒)会活動などの取組の成果と思われる。

【資料6】いじめや思いやりの心、意識等の調査（小・中学校）

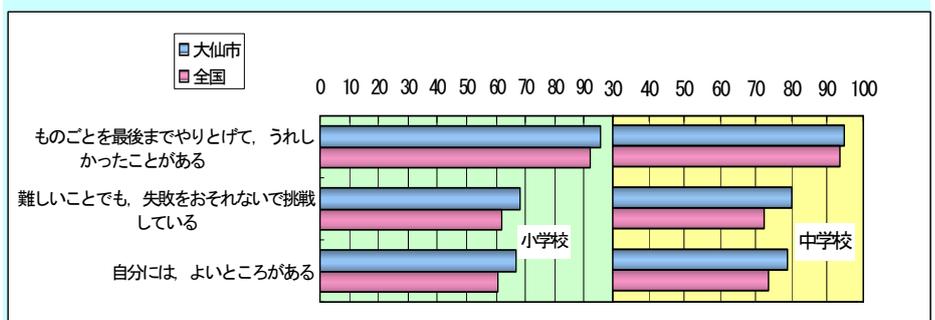


3 意欲や態度

何ごとにもチャレンジし、自分のよさを発揮しながら、粘り強くがんばる児童生徒が多い。また、多くの児童生徒が学校生活の中で達成感を味わっていることが分かる。

体験的な学習をとり入れた特色ある活動や創意工夫を生かした学校行事などが活発に行われ、キャリア教育にも力を入れていることが大きい。

【資料7】意欲や態度などについて（小・中学校）

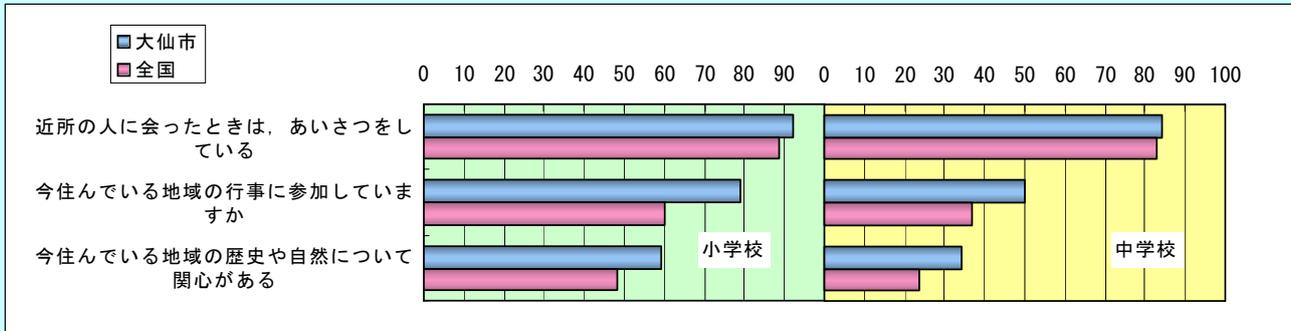


4 地域への愛着、関心

本市の児童生徒は、自分たちの住む地域に愛着をもち、地域の歴史や自然への関心も高い。また、近所の人に挨拶をし、地域の行事などに参加する割合も全国より高い。

これは、総合的な学習の時間などの授業や学校行事で地域の人々の協力を得ながら学習を進めていることが要因と考えられ、地域の教育力が児童生徒の学習環境をはぐくんでいると言える。

【資料8】地域への愛着、関心について（小・中学校）



5 生活習慣・学習習慣と学力調査結果との相関関係

生活習慣や学習習慣と学力調査結果に関連がある項目がいくつか見られた。

〈資料9-① 生活習慣と学力調査結果との関連〉

○朝食を毎日食べている。 ○読書を好んでいる。 ○学校に持っていくものを確認している。

〈資料9-② 学習習慣と学力調査結果との関連〉

〈小学校〉

○人の役に立つ人間になりたい。 ○習った漢字を生活で使おうとする。

○家で学校の宿題をしている。 ○授業で発表する機会がある。

〈中学校〉

○授業で発表する機会がある。 ○段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら文章を読む。

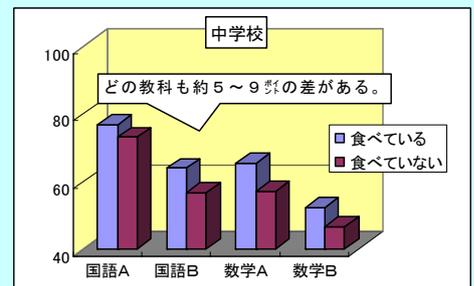
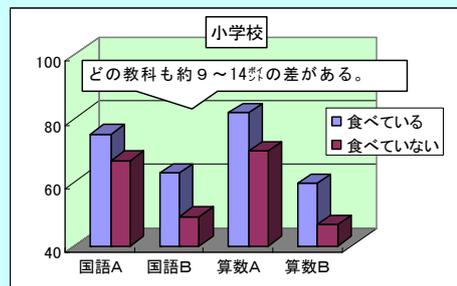
○数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。

○数学の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。

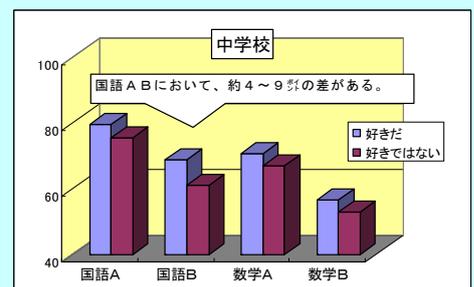
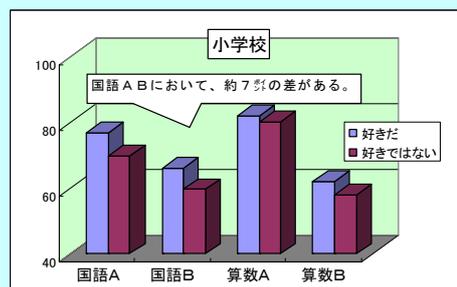
【(あてはまる+ほぼあてはまる) と (ほとんどあてはまらない+全くあてはまらない) の比較】

【資料9-①】生活習慣と学力調査結果との関係

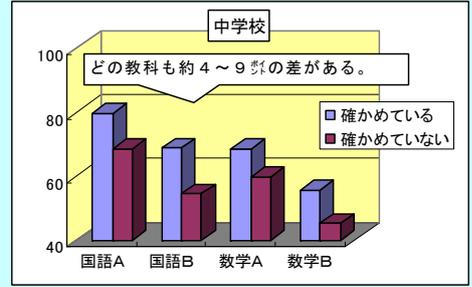
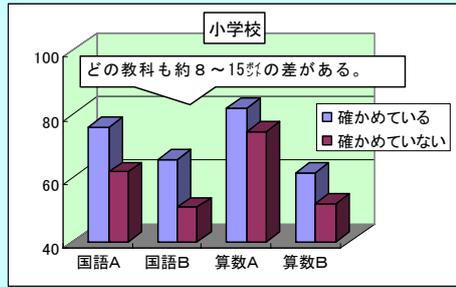
朝食を毎日食べているかという質問に「している」、「どちらかといえば、している」と回答した児童(生徒)のグループの方が、平均正答率が高い。



読書は好きかという質問に「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童(生徒)のグループの方が、平均正答率が高い。特に国語で顕著である。



学校に持って行くものを前日かその日の朝に確かめているという質問に「している」、「どちらかといえば、している」と回答した児童(生徒)のグループの方が、平均正答率が高い。



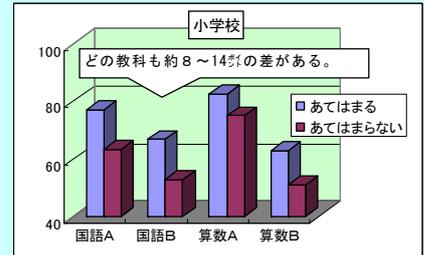
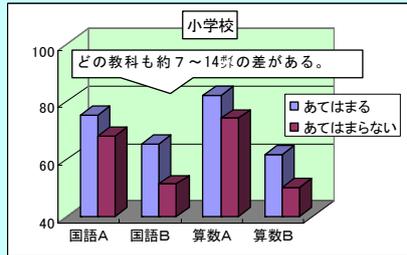
【資料9-②】学習習慣と学力調査結果との関係

小学校

人の役に立つ人間になりたいと思う。

新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしている。

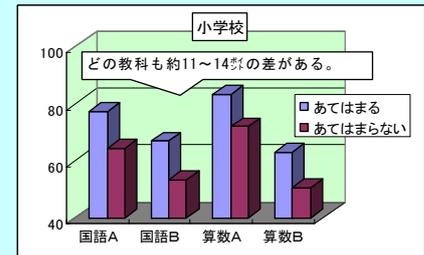
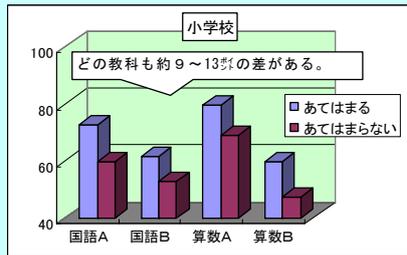
「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしている」児童の方が、どの教科においても7~14%高い。



家で学校の宿題をしている。

授業で発表する機会がある。

「家で学校の宿題をしている」、「授業で発表する機会がある」児童の方が、どの教科においても9~13%高い。

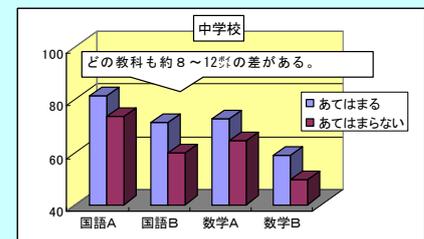
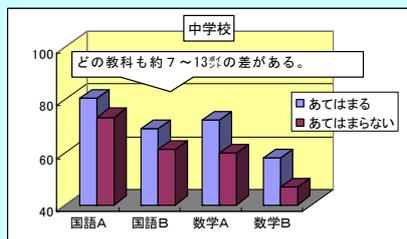


中学校

授業で発表する機会がある。

段落や話のまとめごとに内容を理解しながら文章を読む。

「授業で発表する機会がある」、「段落や話のまとめごとに内容を理解しながら文章を読む」生徒の方が、どの教科においても7~12%高い。



数学の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。

数学の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。

「あきらめずにいろいろな解き方を考える」、「授業で公式や決まりのわけを理解する」生徒の方が、どの教科においても5~15%高い。

